連帯の30年

「連帯の 30 年」発刊に当たって

アジア連帯委員会
会長　　大　木　明　石

アジア連帯委員会（略称・ＣＳＡ）は、国内外の多くの皆さんの「愛と善意」に支えられ、2011 年 4 月をもって創立満 30 周年を迎えました。

その記念行事を 6 月に開催する予定で諸準備を進めてまいりましたが、3 月 11 日のマグニチュード 9.0 という、わが国未曾有の東日本大震災と福島第一原発の大事故が発生したことにより、記念行事は中止し記念誌のみを既刊の「連帯の 20 年」から 10 年間の歴史を編集し「連帯の 30 年」として発刊することといたしました。

私は、ここに記念誌「連帯の 30 年」発刊に当たり、改めてこれまでの 30 年間、運動の発展と組織の拡大のために、ご尽力をいただきました歴代役員、連合、各構成組織、各支援者をはじめ多くの関係者の皆さんに対し、心から深甚なる敬意を表します。

また、ＣＳＡの運動は、連合の「愛のカンパ」からの助成金によって成り立っているといっても過言ではありません。ここに改めて連合のご支援と格別なご配慮に対し、心から感謝とお礼を申し上げます。

ＣＳＡは「インドシナを中心としたアジア諸国の人々の人権を守りその自立を促進すると共に、貧困や多くの問題を抱えているアジアの人々と連帯し、生活と福祉の向上をはかること」という目的達成に向け、この 10 年間は、①救援衣類を送る運動、②ラオスでの小学校建設運動、③ラオスの高校寮生支援の運動を 3 大運動と位置づけ、積極的な運動を展開してまいりました。

私は、ここにこの 10 年間の 3 大運動それぞれの成果と課題について、幾つか述べてみたいと思います。

その成果と課題のひとつは、救援衣類を送る運動であります。この運動は、タイ、ラオス、カンボジアの僻地の生活困窮

者や災害被災者などに送る運動であります。2011 年度で 28 回を数え、この 10 年間で集約された衣類は 1,712 トンという膨大な集約量であります。集約された衣類は、各国政府から完全に生活困窮者や災害被災者などへ配付されており、各国政府と受給者から感謝の言葉が数多く寄せられております。

課題としては、将来支援国の変更などをどう見極めて行くのか、当面の輸送募金の増加などにどう対処して行くのかということもあります。

その二つは、ラオスでの小学校建設運動であります。原則毎年１校を建設するという目標に向け運動を進めた結果、2011 年度で 23 校を建設することができました。多額の建設費用がかかることから非常に大きな成果といえます。

課題は、既存建設小学校の損傷による修繕費の増額や子供たちへの教育資材の支援不足などを考えるとき、毎年１校建設の原則にこだわることなく重点施策を決定し、柔軟に対応することが必要です。

その三つは、サンティパープ高校寮生支援の運動です。この運動は遠隔地に在住する優秀な生徒に進学の機会を与えることと、将来ラオスを担う人材と日本との架け橋になる人材の育成を図るための支援運動です。2011 年度で既に 150 名を超えた卒寮生は、ラオス国内統一試験でそれぞれ優秀な成績を修め大学へと進学しており、そのうち 8 名が日本へ国費留学し勉学に励んでおります。

課題は、この高校寮の管理、運営をＣＳＡが自前で行っていることから、将来ラオス政府へどのように引き渡して行くのか、その見極めが重要となります。

このように、3 大運動は幾つかの課題を残しつつも、連合、各構成組織、各支援者の皆さんの心温まるご支援ご協力により、大きな成果をあげてまいりました。ここに改めて感謝とお礼を申し上げます。

終りに、この意義ある 30 周年を契機としてＣＳＡの運動がますます発展しますように、連合、各構成組織、各支援者の皆さんの積極的なご支援ご協力を心からお願い申し上げ「連帯の 30 年」発刊のご挨拶といたします。

「連帯の 30 年」発刊に寄せて

「働くことを軸とする安心社会」の実現を目指して

日本労働組合総連合会（連合）
会長　　古　賀　伸　明

アジア連帯委員会 (CSA) が設立 30 周年を迎えられたことに際し、心からお慶び申し上げます。インドシナ難民救済を目的として 1981 年に創立され、その後は、ラオス及びタイを中心として、現地における教育関係及び中古衣料の送付などの支援活動にご尽力されていることに心から敬意を表する次第です。また、平素から連合の諸活動について、ご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

連合は、1989 年 11 月 21 日に発足して 23 年目になりますが、連合として、公正と社会正義、自由と機会の平等、連帯と他者への責任という価値観を共有し、労働者の立場から社会システムを改革することが必要と考えております。

経済や産業の発展は人の幸せのためにあります。連合は、今こそ「一部の貧困は全体の繁栄にとって危険である」としたＩＬＯフィラデルフィア宣言の原点に立ち返り、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて積極的に取り組みを推進します。連合には、6,000 万雇用労働者すべての思いを吸い上げてその利害を代表する組織として、劇的に変化する社会経済環境の中においてこれまでの活動を再点検し、労働運動の社会化を目指すナショナルセンターの役割があります。すべての働くものと働くことを願う人々の利益を結び付けていくために、非正規労働者を中心とする仲間づくりを推進し、労働運動の社会的インフラとしての役割を強化していく必要があります。同時に、アジア連帯委員会 (CSA) を始め多くのＮＧＯ・ＮＰＯの団体の幅広い人々との連携をはかり、「働くことを軸とする安心社会」の実現を目指します。

アジア連帯委員会 (CSA) とは、連合結成以来、1990 年より「連合・愛のカンパ」からも支援させていただき、1998 年からは、アジア連帯委員会の事務局長に連合局長経験者を派遣しています。さらに貴組織の団体会員には、連合加盟構成組織・単組などが参画していることからも、連合として今後とも友好関係の発展に積極的に取り組むことをお誓い申し上げご挨拶とさせていただきます。

アジア連帯委員会（CSA）創立 30周年に向けて

UI ゼンセン同盟
中央執行委員　滝澤八千子

アジア連帯委員会（CSA）の 3 大事業のひとつである「救援衣類を送る運動」の取り組みの歴史は古く、ゼンセン同盟時代に、「衣料・卸産業部会」の活動として 1985 年に始められた。

1995 年 9 月には、「結成 50 周年事業」のひとつとして社会貢献活動に力を入れるようになり、ゼンセン同盟全体に広がることとなった。

以来、「救援衣類を送る運動」は、UI ゼンセン同盟に引き継がれ、加盟組合が統一的に取り組む活動として多くの組合やシニア友の会の皆様にもご協力をいただいている。

この活動と合わせて取り組みを進めてきたのが「CSA ワーキングスタディーツァー」への派遣である。「救援衣類を送る運動」に取り組んだ組合のなかから、毎年 3 名を派遣している。この派遣により、派遣参加者組合では活動がさらに広がりを見せている。

この活動は、組織強化のバロメーターともとらえることができるのではないだろうか。「どれだけ組合が参加できたか？」、「どれだけ組合員が参加できたか？」によって、組合の組織力を測る事が可能ではないだろうか。

そのために、私達は「活動の見える化」にもっと力を傾注しなければならない。

最後に CSA 創立 30 周年に向けて、今後のご活躍とご発展を心から祈念する。

CSA創立30周年への祝辞

タイ王国
社会開発福祉省
副大臣　パコーン・パントゥ

アジア連帯委員会（CSA）創立 30 周年にあたり、タイ王国・社会開発福祉省ならびにタイ国民を代表し、心からのご祝辞を述べさせていただきます。

アジア連帯委員会（CSA）とタイ王国はＣＳＡ発足当時からの長い結びつきがあります。１９８１年に中古衣類をタイにある難民キャンプやキャンプ周辺の貧しい人々に配布されたのが始まりです。その後も孤児院、老人ホームなど福祉施設に衣類を寄贈いただき、１９９６年にはタイの福祉に貢献されたとして首相から表彰状が手渡されました。

CSA とタイ社会開発福祉省とは１９年のつきあいがあります。本省を通じてタイ全土の生活困窮者に配布されるようになり、現在では台風や洪水など自然災害の被災者にも届けられています。今回の洪水災害の被災者にも CSA よりご提供いただいた衣類を配布しました。これらの支援はたんなる衣類配布ではなく、人々の自立を目的とした支援として高く評価されています。

タイ社会開発福祉省を代表し、CSA の皆様からのご支援に感謝申し上げ、CSA 創立 30 周年に向けて今後のご発展を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

CSA創立30周年への祝辞

ラオス人民民主共和国
保健省
官房長　ナオ・ブッタ博士

アジア連帯委員会（CSA）創立 30 周年に当たり、ラオス保健省ならびにラオスの恵まれない人々を代表し、心からのご祝辞を述べさせていただくことは、私どもにとってまことに光栄であります。

アジア連帯委員会（CSA）のご支援により、私たちは、冬に当たる乾季に、またとくに今年見舞われた洪水などの災害の際などには、多くの被災者や貧しさゆえに衣類入手不可能な人々に、CSA よりご提供いただいた衣類を配布することができました。

またさらに小学校の建築により、恵まれない子供たちが初等教育を受けることができる環境づくりに寄与していただいています。

ラオス保健省を代表し、会長、副会長、事務局長ならびにすべての CSA 会員の皆様がたの貴重な、温かいご支援にお礼を申し上げ、祝辞のご挨拶とさせていただきます。

アジア連帯委員会（CSA）がよりいっそう、強力になりますことを祈念いたします。

CSA創立30周年への祝辞

ラオス人民民主共和国
教育スポーツ省
副大臣　リトウ・ブーアパオ

アジア連帯委員会（CSA）創立 30 周年に向けて、ラオス人民民主共和国・教育スポーツ省を代表し、1995 年より継続した心からのご支援に対し、心より感謝を申し述べると共にご祝辞を申し上げます。

CSA がラオスにおいて小学校 23 校、そして 90 名の高校生を支援する寮を建設いただきましたことにとくにお礼を申し上げます。高校寮では 90 名の生徒の学費や衣服、食事等の生活面までもご支援いただいており、感謝の言葉もございません。

ラオスへの支援、とくに教育・スポーツ省へのご支援を私どもは非常に高く評価しております。これらの教育支援は戦後、貧しい人々が新たな生活を立ち上げ、生活基盤を築くのに役立ちました。

この機会をお借りし、アジア連帯委員会（CSA）ならびに連合、日本の労働組合の皆様方がラオスに対し、暖かいご支援を継続していただいていることにお礼を申し上げます。
また貴組織を支える方々のご健康と仕事のご成功を祈念いたします。

教育スポーツ省は、ラオスの人的資源育成と将来のためのさらなるご支援を今後とも期待しております。

創立 30 周年に向けて、アジア連帯委員会（CSA）のますますのご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

連帯の 30 年／目次

「連帯の 30 年」発刊に当たって	アジア連帯委員会　会長	大木　明石
「働くことを軸とする安心社会」の実現を目指して	日本労働組合総連合会(連合)　会長	古賀　伸明
アジア連帯委員会(CSA)創立30周年に向けて	UI ゼンセン同盟　中央執行委員	滝澤八千子
CSA 創立 30 周年への祝辞	タイ王国 社会開発福祉省 副大臣	パコーン・パントゥ
CSA 創立 30 周年への祝辞	ラオス人民民主共和国 保健省 官房長	ナオ・ブッタ博士
CSA 創立 30 周年への祝辞	ラオス人民民主共和国 教育スポーツ省 副大臣	リトウ・ブーアパオ

■ 運動の足跡と成果 …… 11

Ⅰ．発足から２０年間の歩み ……12
１．組織の変遷 ……12
２．活動の概要 ……13
３．地道にニーズに応えて ……14
Ⅱ．アジアの恵まれない人々を支援して ……14
１．ラオスの教育環境改善に尽力 ……14
２．救援衣類を送る運動の推進 ……16
３．日本定住者団体との交流 ……17
４．活動の継続と充実をめざして ……17

■ 目でみるＣＳＡの歩み（２００１～２０１１年） …… 21

2001(平成13年)年 ……22
2002(平成14年)年 ……24
2003(平成15年)年 ……26
2004(平成16年)年 ……28
2005(平成17年)年 ……30
2006(平成18年)年 ……32
2007(平成19年)年 ……34
2008(平成20年)年 ……36
2009(平成21年)年 ……38
2010(平成22年)年 ……40
2011(平成23年)年 ……42

■ 年　表 …… 45

■ 歴代役員名簿・加盟団体一覧 …… 51

編集後記・編集委員会メンバー